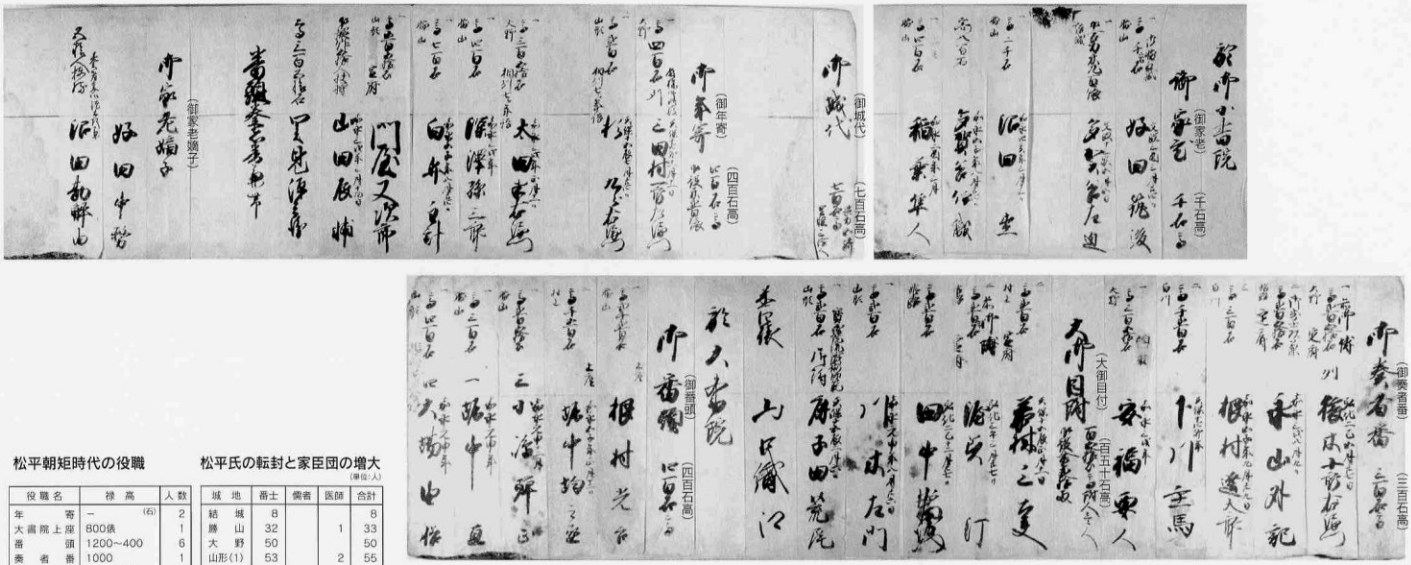
前橋藩松平家の家臣団



この史料は、旧前橋藩士和田家に伝わる前橋藩松平家の文政～嘉永年間の「分限帳」です。分限帳とは、家臣団を身分順や役職順に書き出したもので、家臣団名簿にあたります。この分限帳には家臣の石高や召し抱えられた場所、役職についた年月日などが記入されています。武士たちは家柄や知行によって身分の上下（家格）が決められており、原則として就任できる役職も家格に応じて決められていました。前橋藩松平家の役職は時代が下るにつれて分化し、役職に見合わない家禄の家臣が登用された場合は、在職期間中に役料が支給されました。

前橋藩は、天正18年（1590）に平岩親吉が入り（譜代大名）、慶長６年（1601）に酒井家（譜代大名）がおかれましたが、寛延２年（1749）松平朝矩が姫路藩から15万石で転封されてました。松平家の支配は明治維新まで続きます。前橋藩松平家は、徳川家康の次男秀康の系統で、越前勝山から越前大野、山形、姫路、越後村上、姫路、豊後日田、山形、陸奥白河、姫路を経て前橋に入封しました。明和４年（1767）前橋城の崩壊により川越城へ移転し川越藩となりましたが、慶応３年（1867）に松平直克が帰城し（17万石）再び前橋藩となり維新を迎えました。

〈参考資料〉『群馬県史』通史編４　91～102頁
『前橋市史』第２巻　651～692頁

松平朝矩時代の役職

役職名	禄高	人数
年寄	－（石）	2
大書院上座	800俵	1
番頭	1200～400	6
奏者番	1000	1
寄合	600～300	7
番頭列	350	1
番頭格	300	1
番外頭触流	400	1
奏者番	300	2
奏者番格	250	1
奏者番格触流	200	1
諸準行	300～100	9
物頭	400～150	20
役付	300～100	34
番抜	100	1
長柄	100	2
平士	500～100	95
卷体	250～100	8
医師	200～100	6
番外取次歩行小頭	－	2
番外	17～12	3
（大御納）		
平士	100石～30人扶持	2
医師	200～100	2
番外	30～13	9
合計		217

（「松平藩日記」より作成）
（「群馬県史」通史編4より）

松平氏の転封と家臣団の増大

（単位：人）

城地	番士	備者	医師	合計
結城	8			8
勝山	32		1	33
大野	50			50
山形(1)	53		2	55
姫路(1)	9			9
村上	50	1	1	52
姫路(2)	26		3	29
日田			1	1
山形(2)	2			2
白河	43	1	10	54
姫路(3)	24		3	27
前橋	17		3	20
川越	29	7	15	51
合計	343	9	39	391

（「御家中住日記」より作成）
（「群馬県史」通史編4より）